

令和4年度羽曳野市こども夢プラン推進委員会

日時：令和5年2月14日（火）午後1時30分

場所：羽曳野市役所 別館 3階会議室

1. 開 会

2. こども夢プラン推進委員会委員への委嘱状交付

3. 市長あいさつ

平素は、本市の児童福祉行政、教育行政の推進に格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。また、本日は、「令和4年度羽曳野市こども夢プラン推進委員会」開催しましたところ、ご多用中にも関わらず、ご出席をいただき厚く御礼申し上げます。

現在の「第2期はびきのこども夢プラン」は令和2年3月に策定致しましたが、当時、委員長、副委員長をはじめ本日ご出席の委員の中にも8名の方が、2年間にわたって真剣な議論をしていただいたと伺っています。

私自身、市長に就任した当初から市政運営の基本的な考え方として「7つの柱」を掲げ、その第2の柱に「子育て支援・学校教育の充実」として、これまで様々な施策に取り組んでまいりました。

また、国は本年4月に「こども家庭庁」を設置しますが、子どもや家庭が抱える様々な複合する課題等に対し、適切に対応するため、本市では国に先駆けて、令和4年4月に「こどもえがお部」を創設し、制度や組織による縦割りの壁を無くし、切れ目のない包括的な支援に取り組んでいるところです。

本日は、現行の第2期はびきのこども夢プランの進捗状況など、これまでの取り組みと成果について、事務局よりご報告申し上げます。そして、令和5年度から、第3期はびきのこども夢プランの策定に向け、動き出すこととなってまいります。

委員長、副委員長をはじめ、委員の皆様には、大変なご苦勞をおかけすることと存じますが、第2期プランの基本理念、「ひとりじゃないよ！一緒に育とう！子どもたちが輝き、未来への夢と安心をはぐくむまち、はびきの」の実現をめざして、ご支援、ご協力を賜りますよう、お願いを申し上げます。

4. こども夢プラン推進委員会委員紹介

5. 正副委員長の選出

○委員長、副委員長の選出・挨拶

6. 羽曳野市こども夢プラン推進委員会について

○はびきのこども夢プラン及び推進委員会について事務局より説明

7. 就学前教育・保育の量の見込みと提供体制について

○事務局より説明

○質疑

（委員）白鳥幼稚園と島泉保育園の跡地利用は何か決まっているのでしょうか。

⇒（事務局）跡地利用については、現在未定です。庁内の検討委員会で検討していきます。

8. 地域子ども・子育て支援事業について

○質疑

(委員) 今後、東地区の方にこども園をつくっていく計画を伺っていましたが、利用者と供給量とのバランスについて、どのようにお考えでしょうか。

⇒(事務局) 今現在、市内東地区の方に、こども園の建設の予定を進めさせていただいております。ご存知のようにこども園、1つ目が「こども未来館たかわし」です。第2のこども園として、「向野こども園」を、この4月から開園したところです。第3のこども園といたしまして、下関保育園、こちらの方かなり施設が老朽化しておりますので下関保育園、駒ヶ谷幼稚園と古市南幼稚園と古市幼稚園の、幼稚園3園と、~~一~~保育園1園を対象に、下関保育園の隣接地に第3のこども園の計画を立てております。その次に、第4のこども園といたしまして、軽里保育園がかなり老朽化しておりますので、こちらの方を第4のこども園という形で現在計画を立てております。

(委員) そうしますと、今後は、いわゆる必要最低限の老朽化した保育園・幼稚園なりを、こども園として新たにしていくというようなお答えだったかと思います。日本全体の出生数が70万人を切る勢いと言われてる中で、今後、子ども自体が減ってくるということになると、保育園の利用者ももちろん減っていくということが予想されます。その中で、子どもが集まらない場合は、利用定員を下げるという国の決まりがあり、利用定員を下げることで、子ども一人当たりの単価が上がる仕組みがあります。例えば120人定員の園の実際の利用者が80人、70人に減った場合には、利用定員を80人、70人に下げ、単価が上がるという国の制度があるので、ぜひ利用定員で柔軟に運用していただくような体制を、今から考えていただければ、今後、羽曳野市の子どもたちが安心して、保育園・幼稚園で過ごせると思います。5年10年後、見通しが立てられ、運営側としても安心な中でお子さんを預かっていけるなと思っておりますので、この利用定員の柔軟な運用について一言いただければと思います。

⇒(事務局) 現状をお話しさせていただきますと、就学前の子どもの数は減少傾向にあります。一方で、保育ニーズは高まっております。要するに、低年齢児、0、1、2歳、もしくは3歳ぐらいのお子さんにとって、保育ニーズはかなり高まっていると感じております。

子どもの数は減少傾向ですが、保育ニーズが上がっていることで、平行の形になっており、園のご理解をいただきながら、何とか待機児童ゼロという形を続けさせていただいているところです。おっしゃる利用定員等についても、今後ご意見を伺いながら、いろいろ考えていきたいと思っております。

9. 子育て支援関連事業について

○質疑

(委員) パンダ教室・きりん教室について、最近園には、多動などいろいろなお子さんが入ってこられます。その中で、特にコミュニケーションのところで、大変難しい部分があります。最近では発達支援事業所もできていますが、100人以上の待機待ちもあるときいています。実際はいかがでしょうか。教室の受け入れ人数を増やすなどして対応ができないでしょうか。

⇒(事務局) パンダ教室に関しましては、1歳半健診、2歳半健診からのフォロー教室を保健センターで実施している事業です。きりん教室につきましては3歳6ヶ月健診からのフォロー事業として実施しております。

幼稚園・保育園等で集団生活をされていらっしゃる家庭の子どもさんを対象にしておりますので、保育園児のフォロー先にはなり得ないと考えます。パンダ教

室・きりん教室の参加者が計画よりも下がっているのは、幼稚園等で3歳児保育を始めている園が増えている結果、集団に入る3歳児が多くなり、教室の稼働が少なくなったということが、数字の少なくなっているという理由です。

ご質問のコミュニケーションが難しいという点につきましては、1歳半健診、3歳半健診におきましても、以前問診票の中で実施していた質問項目における通過率というのは、確かに下がってきている状況で、最近では子どもさんも親御さんもマスクをしている関係上、なかなか人の表情や状況がくみ取れないということもあり、教室の先生方がマスクをし始める以前と今とで、通過率について調べている最中でございます。

(委員) 中学校の給食の利用が、計画よりかなり上回っていたかと思いますが。

⇒(事務局) 当初コロナウイルス感染症対策の関係で、学級閉鎖、学年閉鎖分も見込まれましたので、前年同様の数字を見込んでおりましたが、休校や学級閉鎖は想定よりはありませんでしたので、このような数字になっております。

(委員) 中学校給食の全員給食はいつぐらいからできそうかなど、進み具合とかあれば教えてください。結構前から言われているのですが、実現に向けてどれぐらい進んでいるのかというのがよくわからないので、そのあたりを説明いただければと思います。

⇒(事務局) 中学校の全員給食については、令和4年度に各学校でどういう形でできるか、方式について調査を行いまして、最短で、令和7年度中に開始をしたいと考えております。

(委員) クラブ活動について、中学校の生徒が減ってきている中で、廃部になり、やりたい部活が中学校にないということがあります。スポーツ系は、民間の習い事や地域のコミュニティスクールというものがあるかと思いますが、部活動に対しての方向性やコミュニティスクールに関して、市として方向性があれば教えていただければと思います。

⇒(事務局) 国の方も、クラブ活動等が地域に移行していくというような形の指針を示しはじめていますが、羽曳野市としても今すぐに移行ということはなかなか難しく、今後、地域にどのように移行させていくのか、または、学校がどのようにクラブ活動に関わっていけるのかを検討し始めるということで、動き始めることになると思います。

コミュニティスクールについては、地域の人材等を活用しながら学校の教育を進めていくという形で、各学校がコミュニティスクールを取り入れていく方向で進めていくと思いますが、すぐに全校で取り入れるというわけではなく、まず試行的に行った上で、数を増やしていくという方向で考えております。

(委員) 地域には調整区がありまして、小学校ですと仲良かったのに、中学校は住所のせいで変わってしまうので、私立に行ってしまった人がいました。住所的な問題としてありますが、このあたりはどうしても変えられないものでしょうか。

⇒(事務局) 校区の編成経緯もありますし、希望でどちらかに行けるという形にはなっておりません。今お聞きしまして、そういうことが起こっているというのは理解いたしました。ただ、どちらか調整できるのかということ、大変申し訳ありませんが、現在のところはできない形になっております。

(委員) 発達障害のある児童の居場所づくり事業について、目標700人に対し、845人で増えています。実際に増えた後の対応を、どうされたか、もしあれば教えていただければと思います。

また、小学校の先生などが、事前(入学前)に園児を見に来てくれるんですけども、受け入れた後に聞くと、やっぱりしんどいというように聞くので、できたらその辺の対応について教えていただければと思います。

⇒(事務局) コロナ禍で令和2年度にはできなかったことが、令和3年度にできるよう

になってきたという状況だと思います。もう少し増えてくるかなと思っております。

また、調査については、各幼稚園・保育園等に行かせていただきまして、支援が要るようでしたら、支援員の加配をしったりしている状況です。よろしくお願いいたします。

(委員) 外から見たときに、こども未来館たかわしと向野こども園は成り立ちが全然違うと感じますので、羽曳野市として今後、どのような考えで第3、第4のこども園を設立していこうと思っているのかお伺いしたいです。

⇒(事務局) ご指摘のとおり、こども未来館たかわしにおいては、0,1,2歳の子どもをお預かりしておりますが、向野こども園につきましては、0,1,2歳も通っていただいております。今後については、0,1,2歳の保育ニーズは高いところですので、0,1,2歳を含めた形での幼保連携型認定こども園を考えております。それぞれの園においての特色も大切だと思っているため、特色を生かしながら、今後進めていきたいと考えております。

(委員) 私たちは幼稚園で「おはよう挨拶」をしていたが、こども園でも行う際、先生方の反応をみると本当は迷惑ではないかと思う時があります。おはよう挨拶は大事だと思って行かせていただいているが、本音はどうかと思います。

⇒(事務局) 一部の保育士が失礼な対応をしたということについて、申し訳ございません。向野こども園が開園した直後ぐらい、更生保護女性会の皆様方とお話をさせていただいて、地域の子どもたちをしっかりと見ていきたい、関わっていきたいというお話をいただき、おはよう挨拶をお願いしたところです。

子どもたちについては、学校や園に通いながらも、やはり地域の中で育っていくことが大切なかなと思っています。再度、向野こども園と連絡をとって、この1年間の振り返りも含め、話させていただければと思っています。

(委員) 第3、第4のこども園ができるときには、地域で活動している我々以外の団体にも、確立する前にお話を伺ってみたいと思います。

⇒(事務局) 現在、第3こども園の基本計画を作っているところで、基本計画を作成する委託業者と職員が各保育園・幼稚園を回って、こんな保育園がいい、こんな形の建物がいいなど、お話を聞きながら基本計画を立てているところです。今後、完成に向かって進んでいく中で、先生方の声も聞きながら進めていきたいなと思っています。

(委員) 子宮頸癌ワクチンについて、4回以降は公費から出るのでしょうか。

⇒(事務局) 予防接種の関係につきましては、令和5年4月の予防接種のマニュアル等のご説明等に含めまして、子宮頸癌ワクチンにおけるそのあたりの正式な決定についても、各医師会さんにご案内させていただき、市民の方にもご案内させていただく予定です。また正式な通知の方はさせていただきます。

(委員) ペアレントサポート事業について、そもそも計画の中ではゼロで、実績もゼロというところが気になります。どうしてゼロなのかということと、今後、どのような実践をされていくのか、教えていただければと思います。

⇒(事務局) ペアレントサポート事業として新たな取り組みとしては、今のところ障害福祉課と協議しながら、令和3年度は実施できなかったということで、今後検討の中で実施する予定にはしています。

(委員) どのような実施・実践をされるのか、もし具体的に決まっていたことがありましたら、教えてもらえたらなと思いますが、いかがでしょうか。

⇒(事務局) 母子保健の方といたしましては、発達に課題を抱えている親御さん・子どもさんの教室の中で、アクト大阪(大阪府)の協力を得まして、連帯事業として進めているところです。プログラムとしましては、長期にわたるものですので、改めて親子プログラムとしてもしっかり取り組んでいきたいなと思っています。

(委員) 今中学校に限らず小学校の給食は、ご飯、米飯が週何回入っているのでしょうか。ご飯と牛乳というのが非常にミスマッチですが、牛乳を入れないと完全給食と認められない現状があります。牛乳は必須でしょうか。現状を教えていただいて、今後、そのあたりの改善予定があるのかおたずねしたいです。

⇒(事務局) 米飯率ですが、小学校につきましては、週4回が米飯となっております。1回だけパンとなっております。中学校につきましては、基本的には米飯になっております。学校給食法の施行規則において、完全給食とは、「給食内容がパン又は米飯、ミルク及びおかずである給食という。」となっております。

(委員) 子育てネットについて、情報発信を Facebook や LINE という情報ツールを使われると書いてありますが、これも本人が登録しないと見られないものだと思いますので、登録を勧誘する場があるのかどうか伺いたいです。市と関わるタイミングは、妊婦さんであったり、1歳児健診などのタイミングがあると思いますが、そういうタイミングでどんどん登録してもらえるように促していただければと思います。また、情報発信されるにあたって、羽曳野市だけでなく近隣市の子育て講座情報も入れてもらえれば、すごくいいと思います。

⇒(事務局) 現在も子育てネットは web サイトで運用していますが、情報収集方法として SNS を活用することが一般的になってきておりますので、今後は情報発信のツールを LINE に変更させていただき、より身近なツールとして活用できるものにと考えております。皆様に活用していけるように検討してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

10. 今後のスケジュール

○次回の委員会は、令和5年度になってからの開催を予定。

11. その他

○事務連絡等

12. 閉会